

KEK 物質構造科学研究所 1997 -

- **方法手段** : 4つの量子ビーム (ビームラインBL)
- **利用分野** : 物質材料・生命・地球宇宙・環境・食品農学・文化財 文理融合・・・**拡大中**

放射光科学 学術連携
+クライエ電顕・レーザー等

低速陽電子科学

中性子科学

ミウオン科学

大学共同利用 (KEK)
& 共用 (JAEA)

PF加速器・共通
40年
cf. 各国1施設以上

SPF加速器・共通
15年
cf. 各国1施設以下

J-PARC 加速器・共通
10年
cf. 欧米アジア各1施設

KEK 加速器研究施設
KEK 共通基盤研究施設

- **方法手段** : コアなコミュニティ ⇔ 施設研究者
- **利用分野** : 拡大し、新陳代謝もするコミュニティ ⇔ 分野研究者
- **物構研の特徴** : コミュニティを複合的につなぐ“マルチプローブ”研究 (“新分野”)
学術的に優れた研究 & 多様性 & 大学・社会に裾野を広げる

KEK 加速器研究施設
KEK 共通基盤研究施設

加速器・共通
40年以上
with 高度化・劣化対策

KEK 物質構造科学研究所

BL基幹部
20年サイクル 更新

軟X線
硬X線
硬X線
低速陽電子
素核研究
中性子
ミュオン

BL装置部(多数>60本)
10年サイクル 見直し

光電子、吸収、イメージング
吸収、発光、イメージング
回折、散乱、イメージング
回折、散乱
素核
回折、散乱、イメージング
スピン共鳴、イメージング

大学等

測定試料
5年サイクル

インフラ ← 持ち込み可

新たなBLプロジェクト

新たな分野への応用 →

← 新たな手法の利用

複数BL併用

総研大
物構専攻(本来)

大学との双方向性
大学との役割分担

What to develop

How to use

開発

方法論

利用

← 人材育成流動

→

methodology

methodology

機能別分類
(資料3別添)

- 大型設備
- ・ タイミング
 - ・ 継続性(インフラ)
 - ・ 維持予算
 - ・ 開発予算

6年サイクルの検証の進め方（資料2-1）

- ・ 現状把握ばかりではなく、長期的な検証が必要
 - 学術：10年以上経っても引用され続ける研究が大事
 - 継続性と多様性の確保：目立たない研究も大事
- ・ 検証のタイミング：中期計画や所長任期(役割)との関係
- ・ 長期的視野に立った問題点と解決方法が重要 cf. PDCAではない



主な観点（資料2-2）

- ・ 中期計画の法人評価とは異なる観点であって欲しい
長期的観点、継続性
現状の問題点や将来に向けての課題も見せるべき
- ・ (法人化前) 評議員会・運営協議員会 → (後) 運営会議？ cf. 所長のリーダーシップ
- ・ コミュニティはモノポリーでなく、変化もする観点 cf. 新分野
- ・ 人事や課題採否は外部委員割合より透明性の確保の方が重要
- ・ 共同利用件数・人数・論文数は装置の運転時間・予算と相関
- ・ 研究支援業務の専任職員数の十分度も予算と相関
- ・ 新分野の掘り起こしは重要だが、戦略的創出は妥当なのか？

指標例（資料2-2）

- ・ 指標は自ら設定できるという話なので特段意見はないが。。。
- ・ 本当は増えて欲しい指標が減少しているときの検証は？